

様式2（第4関係）

パブリック・コメント制度に基づく意見等募集に係る実施結果票

パブリック・コメントの実施状況	
案 件 名	島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）及び島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に係るパブリック・コメント
案件概要	地方創生に向けて、地域の創意工夫や独自性を活かし、施策を強力に推進・展開することにより、人口減少問題の克服や地域経済の発展を図り、市民が安心して働き、結婚、妊娠、出産、子育ての希望を実現し、将来に夢や希望を持つことができるよう、魅力ある地域づくりを行うため、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。
募集期間	平成27年8月26日（水）から平成27年9月30日（水）まで
担 当 課	市長戦略部 戦略推進課 地方創生担当

パブリック・コメントの結果	
提出状況	1 意見提出者数 1人
	2 提出された意見数 9件
反映状況	1 反映した意見 1件
	2 既に盛り込み済みの意見 4件
	3 今後の検討課題とする意見 件
	4 反映できない意見 2件
	5 その他 2件

No.	項目 意見の内容	市の考え方	反映結果
1	<p>将来ビジョン</p> <p>出生人口減少の要因として、若者が将来に夢が持てにくい、社会制度や社会環境があると考えます。年金や派遣法などの社会制度や自治体における制度や地域の労働環境、生活環境等による生活不安から、将来の人生設計が立てにくくなっている。そのため、現在の若者は、いまを楽しめばよいという逃避現象が進んでいる。日々、人のために働く、人のために行動することを考えて生活することが減少し、自分さえよければと考える人が増加している。また、SNSの発達により、子どもの体力低下や人との関わりの不安定化が進んでいると考える。こうした状況から、若者が将来に安定した生活を描けない。人口ビジョン、総合戦略のそれぞれの（案）には、このような制度に関する要因や対策が満足しているとは考えにくい。</p>	<p>平成27年4月から5月にかけて行いました地方創生に関するアンケート調査では、若者が島田市に望むこととして、安定した雇用の確保、学校の施設・設備の充実、スポーツや遊び場の確保、買い物をしやすくして欲しいなどが挙げられています。この中で、安定した将来を描くには、安定した雇用の確保が重要であると考えております。</p> <p>人口ビジョンでは、島田市の産業の特性を調査し、総合戦略では、「日本で、世界で、稼ぐ産業の創出」を掲げ、しごとの創出に取り組んでいきます。また、家庭、学校、地域を通じて、子どもの社会的自立を促進し、キャリア形成を支援してまいります。</p> <p>国の社会制度や経済環境の影響はありますが、本市として、仕事の創出を図り、それとともに、子育てしやすい社会環境の充実やシティプロモーションの推進なども行い、若者が島田市に住み、生活しやすい環境を整備していきます。</p>	2 既に盛り込み済みの意見
2	<p>行政組織</p> <p>総合戦略（案）で一番必要なことは、推進しようとする市職員のやり遂げようとする意識である。今までの行政評価をみると、保身の行動にあり、地方公務員法で定められた職員の誓約が実行されているようにはとても思えない。決められたことを無難に消化することに務め、市民のために何ができるかという行動</p>	<p>職員の改革意識や組織体質の変革は、今後の自治体経営を左右する重要な課題であり、総合戦略を実行するためには、職員の意識は重要なことでもあります。総合戦略では、まち・ひと・しごと創生に向けた施策を展開し、推進する組織である市については、「島田市行政経営戦略」により対応していくこととしています。</p>	5 その他

	が不足していると考える。このため、生産性向上をはじめとする改善活動等が進展しない環境にある。このポイントが抑えられていない。		
3	<p>産業の振興</p> <p>総合戦略（案）「しごと」の施策として、茶の生産基盤の強化と消費拡大が挙げられている。しかし、茶の消費量は減少の一途をたどり、また、生産量は鹿児島などの地形を生かした量産体制に負けている。お茶に固執しないで、今の時代に合った産業の開発に取り組む必要があると考える。</p>	<p>お茶については、茶価の低迷など厳しい環境にありますが、人口ビジョン52ページにある『「地域の産業・雇用創造チャート」に見る島田市の産業』の「10飲料・たばこ・飼料製造業」に見るように、稼ぐ力のある産業として、産業集積が形成されており、全国的な競争力を有している産業であるといえます。そのため、お茶は、今後、生産基盤の強化やブランド化など、さらに積極的な取組をしていくことを考えております。また、次世代産業の創出については、本年10月1日からの「島田市で創める新ビジネス応援事業補助金」の新設をはじめとして、総合戦略の「エ 地域産業の競争力を高めて稼ぐ（13ページ）」で、創業や新規産業分野への進出の支援、研究開発事業などへの支援に取り組むこととしています。</p>	2 既に盛り込み済みの意見
4	<p>移住・定住</p> <p>総合戦略（案）「ひと」の基本目標「島田市に住み、好きになる」に一番大切なのは、普通の生活（衣・食・住）が安心して送れること。それには、生活のための交通の便、医療の充実、子育て・教育の充実、労働する場所、趣味との交わり、地域人との交わりなどが挙げられるが、施策は不明確。具体的には、定住のための体験教室など。</p>	<p>御指摘のとおり、「普通の生活（衣・食・住）が安心して送れること」は、とても大切なことだと考えております。総合戦略では、「地域経済の持続的な発展」、「人口減少の克服」、「暮らしやすいまちづくり」を基本的な考え方として、市民が安心して働き、結婚、妊娠、出産、子育ての希望を実現し、将来に夢や希望を持つことができる持続可能な暮らしやすい地域づくりを実現していきます。</p> <p>御提案のありました「定住のための体験」については、市外在住者に対しては、「ア 移住・定住の促進</p>	2 既に盛り込み済みの意見

		(14ページ)」の取組として体験ツアーなどを行い、市内在住者に対しては、「ア 健康長寿の促進 (22ページ)」の取組として、講座の開催や交流ができる場の創出などに取り組むこととしています。	
5	<p>総合計画との関わり</p> <p>ビジョン(案)および総合戦略(案)は、現在の総合計画後期基本計画との関係が不明確であり、総合計画のどの項目について成果が表れるのかがわかりにくい。「まち」「ひと」「しごと」のそれぞれの内容は、総合計画及び行政組織の役割分担を明確にすべきと考える。</p>	本市における総合計画につきましては、「市政運営の最上位計画」として定めております。総合戦略は、その総合計画を推進するため、人口減少に歯止めをかけるとともに、当面の人口減少に適応していくという2つの視点をもって、まち・ひと・しごと創生を一体的に推進するため、5年間の目標や施策をまとめたものです。総合戦略の施策については、総合計画の実施計画において位置づけを行うことから、その段階にて、総合計画や行政組織との調整を行い、毎年度評価、改善を繰り返しながら事業を推進していきます。	2 既に盛り込み済みの意見
6	<p>将来ビジョン</p> <p>人口ビジョン(案)では、人口を尺度として地方創生の進展状況を確認しようとしている。人口ビジョン～未来創造～(案)では、2060年目標人口「8万人」をめざしているが、総合戦略(案)では2019年度の5年間としている。5年後の島田市をどのように見ているのか。</p>	総合戦略は、2060年の目標人口を達成するために、当面の5年間に何をするかということをもとめたものです。総合戦略では、人口については、合計特殊出生率1.60、社会移動(転入・転出)の均衡を目指し、経済においては、市内総生産額でリーマンショック前の水準になることを目指しております。5年後の島田市は、この目標を達成し、2060年の目標人口8万人達成に向け、着実に地方創生が進捗していることを想定しています。	5 その他

7	<p>施策の目標</p> <p>総合戦略（案）P 8. 1（1）基本的方向の施策の目標で、市内総生産額の平成26年度基準値は（H24）であるのに、平成31年度目標値は（H20ベースにする）としているのはなぜか。</p>	<p>表記を以下のとおり修正します。</p> <p>3,671.97億円（H29）</p> <p>※H20ベースにする</p> <p>市内総生産額について、平成26年度に公表されているものは、平成24年の市内総生産額であります。平成31年度に公表されるものは、平成29年の市内総生産額になります。なお、平成20年ベースを目標としているのは、リーマンショック前の水準を目指すことを考えて設定したものです。</p>	1 反映した意見
8	<p>施策の目標</p> <p>総合戦略（案）に記載された主な施策の目標値は、上位である基本目標の目標値、さらには基本的な考え方の成果にどのように表現できるのかが不明確。また、根本的に目標値の設定根拠が不明確である。</p>	<p>基本目標の目標値については、施策の積み上げではなく、施策の全体を評価するのに適しており、毎年度評価できる指標を基本として設定しております。PDCAサイクルにより、毎年度、検証・見直しを行う中で、目標値についても検証を行います。</p>	4 反映できない意見
9	<p>予算計画</p> <p>人口ビジョン～未来創造～概要の「このまま進むと2060年に想定される人口減少と超高齢化社会の姿」に記載された課題の施策として、この先5年間の総合戦略（案）で、主な施策が掲げられている。島田市の財政難の状況下において、この施策を実行するのに、予算をいくらと見ているか。本当にできると見込んでの計画となっているか。</p>	<p>予算については、総合戦略単体で見込むのではなく、総合計画の実施計画や各年度の予算編成において、市全体の財政状況を勘案して計画していくものと考えております。限られた財源の中で、まち・ひと・しごと創生の実現に取り組んでいきます。</p>	4 反映できない意見